

《手話・点字教室》 R7. 10. 2

三小の 5 年生は、総合の学習の中で福祉について学んでいます。その学習の一環で、先日、手話・点字教室を各クラスごとに行いました。

まず、手話サークルの皆さんを講師としてお招きし、ろうあ者の方の日々の生活の様子を手話を使ってクイズ形式で、教えていただきました。

- ・玄関のチャイムが鳴ったことをどうやって知るのだろう？
- ・朝、目覚ましが鳴ったことにどうやって気づくのだろう？
- ・後ろからベルを鳴らして近づいてきても気がつかない。どうしたら良い？



など、日々の生活を送る中でどのような工夫をしているのか、周囲の人がどのような心遣いをすれば、お互いが気持ちよく生活できるのかなど、深く考えさせてもらいました。

そして、手話のあいさつ・自己紹介の仕方なども教えていただきました。その際、一人ひとりの子どもたちに、その子の名字を手話でどのように表現するのかを教えていただいたことで、子どもたちは夢中になって真剣に学んでいました。

初めて交流するろうあ者の先生に、始めは緊張していた子どもたちも、先生の笑顔や明るいジョークに自然と笑みがこぼれ、先生が教室を出る時には、笑顔いっぱいの手話で「さようなら」「ありがとう」のあいさつを繰り返していました。

教科書や映像で学ぶだけでなく、実際にろうあ者の先生と交流できたことで、ずっと記憶に残るすてきな学習をすることができました。

次の時間は、点字サークルの皆さんに点字の打ち方を教えていただきました。一人に一台、点字板をお借りし、学校名・名前などを打ってしおりを作成しました。初めての点字に、最初は戸惑っていた子どもたちでしたが、すぐに慣れ、どの子も夢中になって、点字を打っていました。



耳が聞こえない方、目が見えない方、様々な立場の皆さんが、色々な工夫をしながら気持ちよく生活するために取り組んでいることを知ることができ、子どもたちの世界はまた少し広がったようです。

三小の皆さん、色々な立場の人のことを考え、皆が気持ちよく生きるために、自分ができることは何かをいつでも考えながら生活できるとすてきですね。どうぞこれからも、「人のために自分ができることは何か？」を考えていってください。

